

令和7年度都立荒川工科高校における教科指導の重点

教科	重点課題	取組	発展的取組
国語	・「ことば」への興味の涵養 ・「話す・聞く」ことの意識の向上	・ICT機器等を多用して、語彙指導を多面的におこなう ・アクティブラーニング等で、授業内の言語活動を充実させる。	人間と社会や科の発表会等での活動で活かす。
地理歴史	地歴的観点・公民的観点の両面から現代社会における問題点を考察する。	・事象を社会的に捉え、現代社会の問題を見いだせる教材の開発 ・問題解決の過程において、論理的に考察する活動を重視した授業の実施	・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度の評価を取り入れた授業の実施
公民	公民的観点・地歴的観点の両面から現代社会における問題点を考察する。	・事象を社会的に捉え、現代社会の問題を見いだせる教材の開発 ・問題解決の過程において、論理的に考察する活動を重視した授業の実施	・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度の評価を取り入れた授業の実施
数学	数学的な見方	数式を理解し、適切に式変形をする授業の実施	数学的な表現と処理をする授業の実施
理科	・科学的な見方 ・考え方を働かせた理科的活動	・事象を科学的に捉え、理科の問題を見いだせる教材の開発 ・問題解決の過程において、論理的に考察する活動を重視した授業の実施	・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度の評価を取り入れた授業の実施
保健体育	自主性・コミュニケーション能力を育てる。	グループワーク・対話を大事にしながら、リーダー・協力というような基本的態度を育てていく。	行事などの中でリーダーや自主的に活動できる力を発揮できるようにする。
芸術 (音楽)	楽典の学習における発展的学習として、音の読みとリズムを一体化して学習する。	音の読みを完全に理解した後、リズムの構造と合わせて立体的に学習させる。具体的にはリズムに詩をつけたりしてリズムの実践的な動きを理解させる。	音とリズムの実践的な学習の取り組みとしての最終ラインとして自由詩による作曲法を学習する。形式的には2部形式の曲が完成できるようにすることが目標である。
芸術 (美術)	「見て学ぶ」学習活動の充実「構想し表現する」学習活動の充実	人工物や自然物を様々な角度から観察して描くとともに混色や重色を工夫して着彩する。レタリング、様々な遠近法などを取り入れた応用学習、創作学習をおこなう。	西洋と日本の美術文化について、時代・作者・技法について知識を深め鑑賞することができる。「身近な生活」を自身の視点でとらえ、版画で表現することができる。
英語	基礎的な語彙の定着と学んだ語を「使う」指導の充実	・ペアワーク等でアウトプットする機会を多く設定する ・ICT機器を活用し、音と視覚効果によって語彙力の増加・定着をはかる	・年に4回程度、スピーキングテストを実施 ・スピーキングテストで話した内容を書く
家庭	実践的・体験的な学習活動の充実	・2学年で被服製作実習を実施。 ・3学年で被服製作実習、調理実習、高齢者体験実習を実施。	・2学年で消費者教育に関する外部機関の出前授業を実施。 ・3学年で認知症サポーター養成講座を実施。
電気	生徒の学力に沿った目標設定を行う	定期的に教科会や科全体での会議を行い、情報交換や意見交換を行い、その内容をもとにPDCAサイクルにて常に改善を図り、個に応じた生徒の成長に繋げる。	電気工事士等の資格取得や、教科「課題研究」などで、生徒自ら意欲的に取り組み進めていけるような能力を育成する。
電子	電子回路、通信技術等の理解力を向上させ、関連する知識や技術の習得を実践する。	座学では基礎・基本を学習し、実習では実践的・体験的な項目を取り入れ、ものづくりを通して技術者としての資質を向上させる。	自らが「社会の課題」を見つけ、改善策を検討し、解決へと導ける力を養わせる。課題研究にてこれらを結実させる。
情報技術	・情報技術に関する基礎的な能力を身につける。 ・情報技術に関する見方や考え方を働かせ、論理的な思考と問題解決能力を育てる。	・学年進行に伴い、実習内容を段階的に発展させる項目設定を行うとともに、実践的・体験的な内容を多く取り入れることで、生徒の理解度を深める。 ・自ら考え、問題に取り組む場面を設定する。	3年時の課題研究において、自ら興味関心を持つ内容について目標を持ち、幅広い知識と技能で、論理的に課題を解決できるようにする。